

●大動脈炎症候群（高安動脈炎）

「脈なし病」として知られている病気で、体に血液を供給するための動脈が免疫学的な異常によって炎症を起こし、狭くなったり拡張したりします。多くは、頸部や腕に行く動脈に病気をおこしやすく、動脈が狭くなることによって脈が触れにくくなったり、力が入り難いなどの症状を引き起こします。（「バッグを持っていると腕が痛くなる」など、何気ない症状で病気が分かることも多々あります。）

原因は一部では遺伝的な要素があることも分かってきていますが、未だ不明な点も多く、十分に解明されていません。血管 MRI・CT など動脈の壁が異常に厚くなっていることなどが特徴的な所見とされていますが、その他血液検査や最近では PET 検査でも早期に診断することができる場合もあります。

治療は、副腎皮質ステロイドの投与が第一選択ですが、難治性の大動脈炎症候群に対しては、免疫抑制剤の投与が選択される場合もあります。また、リウマチに用いられている生物学的製剤が有効であるケースもあり、患者様の病状などにより適切な治療を選択します。比較的まれな病気であることもあり、当院には国内・海外からも多くの患者様が通院され、国内有数の診療実績を挙げています。

